

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和4年度 技術情報第5号(普通期水稻の穂いもち)について (送付)

7月下旬から8月上旬にかけて普通期水稻の葉いもちが増加し、一部地域で発生ほ場率が高くなっています。山間部等の常発地では発生拡大が懸念されるので、発生状況に十分注意し、穂いもちの予防防除に努めてください。

なお、本情報は病害虫防除所ホームページ(www.jppn.ne.jp/kagoshima)にも掲載しています。



令和4年度 技術情報第5号

1 対象病害虫 いもち病(穂いもち)

2 対象作物 普通期水稻

3 発生状況及び情報の根拠

- 8月1日～5日の調査で発生程度は低かったが、発生ほ場率が44%(平成37%)とやや高く、特に北薩山間地域と南薩地域で高かった(表1, 図1)。
- 気温の日較差が大きく、稲の葉に朝露が長く付着するような山間部等のいもち病の常発地では、発生拡大が懸念される。

4 防除上注意すべき事項

- 葉いもちから穂いもちの発生(感染)を防ぐために、水面に施用する粒剤等や茎葉に散布する液剤等で予防防除する。
- 上位葉に発生を認める場合は、液剤等で早急に防除する。
- 粒剤等を用いる場合は出穂10日前までに、液剤等を用いる場合は穂ばらみ期から穂ぞろい期に防除する。
- 粒剤等による穂いもち防除を行ったほ場でも、出穂後不順な天候が続く場合は穂ぞろい期に液剤等で補完防除する。
- 常発地や葉色の濃いほ場では、窒素質肥料の追肥を控える。
- QoI剤(アミスターなどを含むストロビルリン系殺菌剤)耐性イネいもち病菌の発生が懸念されるので、本田散布の本剤使用は年1回以下とする。
また、薬剤により使用時期が異なるのでラベルをよく確認する

5 調査結果

表1 葉いもちの発生状況

地域 ^{注2)}	調査ほ場数	7月下旬 ^{注1)}					8月上旬 ^{注1)}								
		程度別発生ほ場数					発生ほ場率(%)		程度別発生ほ場数					発生ほ場率(%)	
		甚	多	中	少	無 ^{注3)}	本年	平成 ^{注1)}	甚	多	中	少	無	本年	平成
南薩	10		2	8		20	10		6	4		60	34		
北薩平坦	24		6	18		25	6		8	16		33	30		
北薩山間	22		5	17		23	8		16	6		73	54		
大隅	6		2	4		33	5		1	5		17	28		
県全体	62		16	47		25	7		31	31		44	37		

注1) 7月下旬は令和4年7月13～22日、8月上旬は同年8月1～5日に調査。平年は、平成24年～令和3年までの10年間の平均。

注2) 地域別の調査地点は下記のとおり。

南薩：知覧、川辺、いちき串木野、伊集院他

北薩平坦：鹿児島、蒲生、始良、隼人、国分、薩摩川内、入来、阿久根、出水、野田、高尾野他

北薩山間：宮之城、鶴田、さつま、祁答院、菱刈、大口、湧水他

大隅：大隅、末吉、鹿屋

注3) 発生程度基準は下記のとおり。

甚：病斑面積率が50%以上

多：病斑面積率が10%程度

中：病斑面積率が2%程度

少：病斑面積率が0.5%程度

無：病斑なし

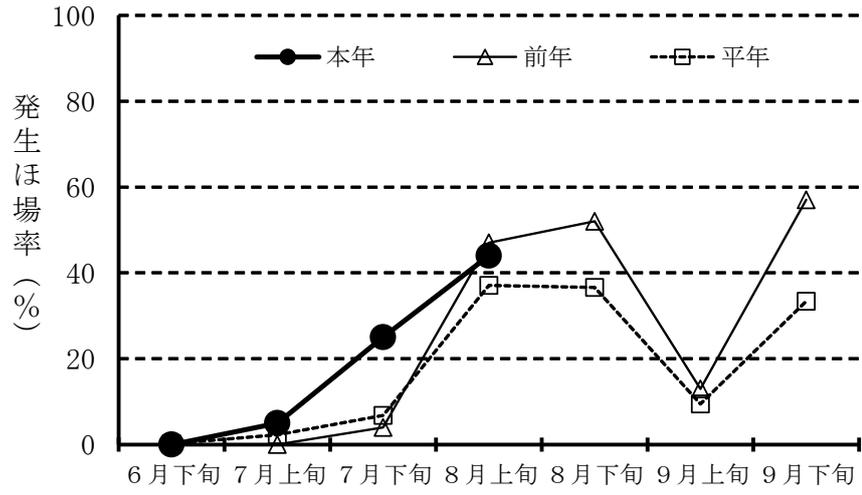


図1 いもち病の発生ほ場率の推移（普通期水稻）